



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

NO. 2535

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ぶくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

クラブ会報 なんと

撮影 写真同好会 山田 孝会員



小松にて

◆幹事報告 吉田 実幹事

①高岡北、氷見、氷見中央、高岡西、新湊、小矢部中 RCより、例会変更、取消しのご案内。

◆委員会報告

● 親睦活動委員会 安居利浩委員長

- ・12/21(火)のクリスマス家族会の出欠を至急お願いします。ア・ミューホール(2階) 18:00より
- ・1/11(火) 新年懇親会「みや川」・「東」からの出張予約。後日、詳細案内します。



クラブへ

第2594回例会 令和3年11月30日(火)曇16℃

- ◆点 鐘 12:30 北島芳信会長
- ◆司 会 片山道代SAA
- ◆ソング 「我等の生業」
- ◆会長の時間 北島芳信会長

鳥坂沙摩明王像
レプリカ彩色銅像



皆様今日は！本日もご参加有難うございます。今日の卓話担当は岩木貴之会員です。ご多忙のところご準備戴き有難うございます。宜しくお願いたします。さてご報告が遅くなりましたが、高岡ロータリークラブ創立70周年記念式典・祝賀会が、9月予定を繰り延べて去る11月14日(日)16時から高岡・瑞龍寺の国宝法堂で開催されました。一部緩和されたとはいえ新型コロナウイルス感染症対策警戒レベル・ステージ1が継続される中での開催となりました。そのため、参加者はロータリー関係者のみ90名弱で、市長など外部の方は招かず、来賓はスポンサークラブとガバナーエレクト、ガバナーノミニ、パストガバナー(神野ガバナーはビデオ挨拶にて)、地区幹事、第3第4グループガバナー補佐及び各クラブ会長までで、式典・アトラクション・祝賀会と全部で2時間余ほどのコンパクトな内容で行われました。

コロナ対策では、受付での検温・手指消毒、4人掛テーブル・卓上透明衝立、ストープ多数置いての入口解放、演台前廻り空間確保、使用者毎にマイク交換消毒そして会食時はお酌交歓等の立回りを禁止とし着席テーブル内での歓談とされました。記念事業は9月開催の茶道裏千家家元・千宗室(せんそうしつ)氏講演会、瑞龍寺うすさま明王像レプリカ銅像＝写真＝の原初再現彩色、物故会員法要、チャリティゴルフコンペ、ロータリー財団へ寄付50万円、米山記念奨学会へ寄付50万円とのことでした。祝賀会料理は前菜盛り・お造り・松花堂・ローストビーフ・蒸物・ご飯物・果物・コーヒーで、お土産に焼き菓子詰合わせも戴きました。大きな本堂外陣とはいえ宴会場として使用するには手狭になるので、コンパニオンやケータリングの方がこまめに手早く給仕や片付等接待をしておられました。自車で帰る方も多くノンアルコール飲料が多くでていたようで、立ち回りをしない分食事に時間を使うので食品ロスも少ないように思いました。

アトラクションとして、加賀能楽座・渡邊筍之介氏、オペラ歌手・澤武紀行氏、ピアニスト・竹内佳代氏による能楽とオペラの共演が行われました。祝賀会に先立ち5曲20分程演じられ、宴会の終盤で2曲程の再登場がありました。始めの公演は歌詞の意味は全くわからないのに高い芸術性に圧倒されました。後の再登場では明るく和やかな語りも交えながら楽しく盛り上げて下さいました。

そこで、来る当クラブ活動のクリスマス家族会ですが、県の制限緩和があったとはいえ依然コロナ感染再拡大防止に努めなければなりません。この高岡クラブ方式を参考にて、派手なパーティというよりは、ファミリーに感謝をこめて和やかにアトラクションや食事やお土産を楽しむ会食の場になりたいと思います。多数のご参加をとご協力をお願い致します。

★ニコニコボックス 11/30 森 悦夫委員長

- 北島君 岩木さん、卓話ありがとうございます。楽しみです。
- 岩木君 本日、卓話担当です。つたない話で申し訳ありませんがよろしくお願いたします。
- 森悦君 岩木さん、卓話楽しみに聞かせて頂きます。先日スノータイヤ(ラジアル)に替えました。準備万端です。でも雪は降らない方が良いでしょう。
- 荒井君、古瀬君、山田孝君、谷村修君、吉田君/ 岩木さんの卓話、楽しみにしております。
- 湯浅君 久しぶりに参加させて頂きました。コロナが静かになり、クリスマス家族会、楽しみにしています。有難うございます。合掌
- 岡部君 11月も終わりとなりました。まだ雪の気配もなく有難いです。岩木さんの卓話が楽しみです。
- 榊 君 本日をもって、議長職を退任することになりました。色々ご支援いただきありがとうございます。これに伴い、全国過疎地域連盟の副会長職も退任となります。
- 片山道君 城端の田代さんの湯葉やさん、今月でやめられます。100年以上続く昔ながらの薪でつくる「生湯葉」。歴史ある湯葉を最後に召し上がって頂きたくて弁当に入れました。
- 安居君 先日28日の日曜日、仕事で平へ行きました。平スキー場の手前のトンネルを抜けるとアイスバーンでした。タイヤ替えて良かったです。
- 尾山君 昨夜9時頃、平村トンネル出口で道路凍結。スリップ事故軽ワンボックス横転、横だおし。車両は夏タイヤでした。早めのご準備を。
- 川合君 棟方サミットin杉並に行ってきました。40数年前に下宿していた南荻窪の辺りを歩いてみて、懐かしく思いました。
- 久恵君 早、師走ですね。歩くのは遅くなりましたが、時の過ぎるのは早くなりました。
- 中田君 いい天気のうちで冬支度を済ませたいです。
- 石崎和君 冬シーズンタイヤは取り替えました。
- 松本君 コロナが治まりかけたかと安堵してましたが、南アフリカから変異株が現れて、予断を許さないですね。^{30%以上の変異}
- 木勢君 日一日と青天が喜ばしく感じます。ゴルフができますように願っています。^{オミクロン株} ^{結合しやすくなり} ^{感染力が強くなる} ^{ウイルス} ^{細胞}
- 船藤君 早退します。

本日のプログラム 12月7日(火) 第2595回例会
インターアクト(IA)セミナー*ゲスト 福光高校 中村校長、紫藤先生
担当 IA委員会 山田清志委員長

◆出席報告 谷村修基委員長

会員数	11月30日出席率	11月2日(未修正)
44 (免除0)	72.73% (欠12)	63.64% (欠20・メーク?)

次回の予定 12月14日(火) 第2596回例会
年次総会 = 進行 北島芳信会長
総会后 卓話 = 担当 木勢博文会員

・12月21日(火)はクリスマス家族会*12月28日(火)は休会となります。



第1話「WGIP」

本日は「WGIP」(ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム)について調べてみました。これは賛否両論がありますが、中立的な立場で話します。

WGIP (War Guilt Information Program) とは、大東亜戦争後の昭和20 (1945) 年からサンフランシスコ講和条約発効によって日本が主権回復を果たした昭和27年までの7年間の占領期間に、連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ) が占領政策として行った、戦争への罪悪感を日本人の心に植えつける宣伝計画のことです。

これは文芸評論家の江藤淳が、GHQの内部資料を調べ上げ、1989年自身の著書「閉ざされた言語空間 占領軍の検閲と戦後日本」にて発表しております。これは太平洋戦争史という宣伝文書を《日本の「軍国主義者」と「国民」とを対立させようという意図が込められ、この対立を仮構することによって、実際には日本と連合国、特に日本と米国との間の戦いであった大戦を、現実には存在しなかった「軍国主義者」と「国民」との間の戦いにすり替えようとする底意が秘められている》と分析。また、「もしこの架空の対立の図式を、現実と錯覚し、或いは何らかの理由で錯覚したふりをする日本人が出現すれば、「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」は、一応所期の目的を達成したといつてよい。つまり、そのとき、日本における伝統的秩序破壊のための、永久革命の図式が成立し、以後日本人が大戦のために傾注した夥しいエネルギーは、二度と再び米国に向けられることなく、専ら「軍国主義者」と旧秩序の破壊に向けられるに違いない」とも指摘しております。また、「軍国主義者」と「国民」の対立という架空の図式を導入することによって、「国民」に対する「罪」を犯したのも、「現在および将来の日本の苦難と窮乏」も、すべて「軍国主義者」の責任であって、米国には何らの責任も無いという論理が成立可能になる。大都市の無差別爆撃も、広島・長崎への原爆投下も、「軍国主義者」が悪かったから起った災厄であって、実際に爆弾を落した米国人には悪いところはない」という洗脳作戦だと指摘しております。

まずアメリカ側が戦争をどのように考えていたのかを見ますと、戦争は軍事戦、政治戦、心理戦に分け、政治戦とは政治的手段によって、心理戦とはプロパガンダや情報操作によって、相手国やその国民を従わせることです。最近のイラク戦争やアフガニスタン戦争を見ても、軍事戦の勝利だけでは、目指す目的が達成できない。それを達成するためには、政治戦と心理戦においても成功を収める必要がある。そうしないと、軍隊が引き揚げた途端、政治は戦争の前に逆行し、民衆は復讐の為再び立ち上り、戦争をもう一度することになるからであります。

具体的にはまず、この戦争の名称をすべての公文書において「大東亜戦争」から「太平洋戦争」へと変更させられております。大東亜戦争とは終戦まで日本が呼んでおりましたこの戦争の呼称であり、日本の立場から見た戦争、即ち西欧列強に植民地支配されている東南アジアの国々を開放し、ともに共存共栄するための大東亜共栄圏を作り上げようという大義があったわけですが、片や、連合国側の立場においては、残虐非道な日本軍の東南アジア侵略を防ぎ、正義の鉄槌を与えるという大義名分がこの太平洋戦争の呼び名でありました。

そして1945年12月より開始されたNHKのラジオ番組「真相はこうだ」により、この戦争の残虐的行為を日本人に知らしめております。このマスコミに対する規制。要するにしなければならないことが30項目あるといわれていますが、その一部を紹介しますと

- ①連合国軍最高司令官もしくは司令部 (GHQ) に対する批判
 - ②東京裁判の批判 ③日本国憲法 (GHQの起草) の批判
 - ④検閲制度に対する批判 ⑤米、英、露、朝鮮、中国、他の連合国への批判
 - ⑥満州における日本人の取り扱いに対する批判 ⑦連合国の戦前に対する政策の批判 ⑧第三次世界大戦に対する言及 ⑨冷戦にたいする言及
 - ⑩軍国主義やナショナリズムの宣伝 ⑪大東亜共栄圏の宣伝
 - ⑫戦争犯罪人の正当化 ⑬占領軍兵士と日本人女性の交渉 ⑭闇市状況
 - ⑮占領軍軍隊に対する批判 ⑯餓死の誇張
- などなど、であります。

WGIPは、米軍の占領直後に始まり、サンフランシスコ講和条約によって日本が主権を回復した昭和27年迄の7年間の占領期間に実施されたものですが、その影響には計り知れないものがあり、時間的な7年間の影響力に慄然たる思いが軍国主義(者)を悪玉とし、国民は被害者とする二分法は、単純ではありますが、より一層効果的といえます。繰返しの発信により、国民のイメージ形成を行い、洗脳されていると気付かぬうちに洗脳してしまうと云うのは極めて巧妙と思われ、人間は意外に弱いものだと感じます。端的に言えば、日本(軍)悪玉論、大本營・軍国主義・一部政治家は悪で、国民は被害者、原爆投下は米兵の命を助ける為、日本の残虐行為に日本国民は反省すべき等々日本人の誇りや事実関係を一切否定し、米側に都合のよい情報のみを垂れ流し、日本を貶め、戦前からの日本の価値観をも否定する自虐的思想が横行し、WGIPが残した毒は、政、財、官、法律、教育、マスコミ等あらゆる分野で、今も枢要の地位を占める人を含む、多くの日本人の思考を今も縛っているという論理であります。皆さんはどのように感じられましたか。

第2話 「脱亜論」

「脱亜論」とは、1885年 (明治18年) 3月16日、時事新報という新聞に掲載された無署名の社説でありまして、そののち約50年近くたった昭和の初期に、筆者が判明したものであります。

世界の交通の道は便利になり、西洋文明の風は東に進み、至るところ、

草も木もこの風になびかないことはない。最近、東洋に国がある民のために考えると、この文明が東に進んでくる勢いに抵抗して、これを防ぎざる覚悟であれば、それもよい。しかし、いやしくも世界中の現状を觀察し、事実上それが不可能なことを知る者は、世の移りに併せ、共に文明の海に浮き沈み、文明の波に乗り、文明の苦楽をともにする以外にはないのである。文明とは全く麻疹の流行のようなものだ。この時、流行病の害を憎み、これを防ごうとする手段はあるだろうか？ 筆者はその手段は断じてないことを保証する。有害一辺倒の流行病も、その勢いにはなお抵抗できない。況や利益と害悪が伴い、常に利益の多い文明は尚更である。防がないばかりではなく、その普及を助け、国民を早くその気風に染ませることが知識人の課題である。文明を防いでその侵入を止めようとするれば、日本国の独立は維持できなかった。何故ならば、世界文明の慌しい情勢は、東洋の孤島の眠りを許すものではなかったからだ。ここにおいて、わが日本の人士は、国を重く、幕府を軽いとする大義に基づき、また、幸いに神聖なる皇室の尊厳によって、断固として旧幕府を倒し、新政府を打ち立てた。政府も民間も区別なく、国中が一切万事、西洋近代文明を採り、日本の旧法を改革した。アジア全域の中にあつて、一つの新機軸を確立し、主義とするのは只、脱亜の二文字にあるのみである。わが日本の国土はアジアの東端に位置するのであるが、不幸なのは、



隣国があり、その一を支那といい、一を朝鮮という。この二国の人民も古来、アジア流の政治・宗教・風俗に養われてきたことは、日本国民と異ならない。だが人種の由来が特別なのか、または同様の政治・宗教・風俗のなかにいながら、遺伝した教育に違うものがあるためか、日・支・韓の三国を並べれば、日本に比べれば支那・韓国はよほど似ているのである。交通便利な世の中にあつては、文明の物ごとを見聞きしないわけではないが、耳や目の見聞は心を動かすことにならず、その古くさい慣習にしがみつくと有様は、百千年の昔とおなじである。現在の文明、日に日に新たな活劇の場に、教育を論じれば儒教主義といひ、学校で教えるべきは仁義礼智といひ、一から十まで外見の虚飾ばかりに拘り、実際においては真理や原則を弁えることがない。そればかりか、道徳さえ地を掃いたように消え果て、残酷破廉恥を極め、なお傲然として自省の念など持たない者である。筆者からこの二国をみれば、今の文明東進の情勢の中にあつては、とても独立を維持する道はない。幸い国の中に志士が現れ、国の開明進歩の手始めに、我らの明治維新のような政府の大改革を企て、政治を改めるとともに人心を一新するような活動があれば、また別である。もしそうならない場合は、今より数年たたぬうちに亡国となり、その国土は世界の文明諸国に分割されることは、一点の疑いもない。何故ならば、麻疹と同じ文明開化の流行に遭いながら、支那・韓国の両国は伝染の自然法則に背き、無理にこれを避けようとして室内に閉じ籠り、空気の流通を遮断して、窒息しているからだ。

「輔車唇齒」(ほしんしんじ) とは隣国が相互に援助しあう喩えであるが、今の支那朝鮮は日本のために髪一本ほどの役に立たない。西洋文明人の眼から見れば、時には三国を同一視し、支那・韓国の評価で、日本を判断するということもありえるのだ。現在の戦略を考えるに、わが国は隣国の開明を待ち、共にアジアを發展させる猶予はない。むしろ、その仲間から脱し、西洋の文明国と進退を共にし、隣国だからと特別の配慮をすることなく、西洋人が接するようにすべきである。悪友と交わる者も、また悪名を免れない。筆者は心の中で、悪友を謝絶するものである。実はこの筆者、誰かと言いますと福沢諭吉であらうと言われている。福沢諭吉はこののち、12年後の明治30年 (1897年) に次のようなことも言っております。されば斯る国人に対して如何なる約束を結ぶも、背信違約は彼等の持前にして毫も意に介することなし。既に従来は外交際にも屢ば実験したる所なれば、朝鮮人を相手の約束ならば、最初より無効のものとして覚悟して、事実上に自ら実を収むるの外なきのみ。

福沢諭吉は、120〜130年前に、既にこのように看破していたわけですが、福沢諭吉は、決して「嫌韓」論者でもなく、アジア蔑視をしていた訳でも無く、帝国主義の思想家でもありませんでした。彼は西洋列強のアジアへの侵略に対して、明治維新によって近代化を拓いた日本こそが、中国や朝鮮と、共に連帯して対抗すべきであると考えていたのです。

また亜細亜という言葉から、清朝と朝鮮を同じように捉えていたのではなく、むしろ朝鮮をアジア同胞として清韓の従属関係から脱却させ日本のように文明化させることの必要性を説き、尽力したのです。朝鮮の開化派を、福沢は積極的に支援し、そのリーダーであった金玉均らの青年を受け入れ、指導教育を惜しまず、また朝鮮に慶應義塾の門下生を派遣し、朝鮮王朝の「事大主義」の改革を促したものであります。

福沢は金に、極めて大切なことを伝えます。それは「独立・自主の重要性」でした。全世界の文明国はすべて完全な主権国家であるのに対し、2000年の歴史を有する朝鮮が、清国の下に甘んじているべきなのか。福沢をはじめとする日本の各界のリーダーたちは、文化的啓蒙によって、金が李氏朝鮮を革新することを期待したのです。金もまた、その期待を十分理解して、1884年(明治17年)に朝鮮に帰国。同年12月、政權打倒のクーデター(甲申事変)を起こします。しかし清国の介入により、たった3日で金と福沢の夢は打ち砕かれたのであります。このように、「脱亜論」とは日本を中心とする東アジアの平和と近代化、そして共存共栄の理想を掲げていたにも拘らず、旧態依然とした体制にことごとく打ち砕かれた福沢諭吉の「敗北宣言」と言われております。

(卓話は紙面の都合上要約いたしました) (今回の会報担当・森 雄一)